



玉手箱の秘密

まとめ買いした本の2冊目は、橋本治『古典を読んでみましょう』(ちくまプリマ-新書)である。1冊目の『打倒!センター試験の現代文』とともに「ちくまプリマ-新書」だが、このシリーズは高校生向けの新書なので、気がついたら手にとってみるといいだろう。どの本も高校生向きに、分かりやすく、かつ知的好奇心を刺激するような工夫が凝らされた内容になっている。逆に「そこがつまらない」と感じる人もいるかも知れないが…。

まず、古典の勉強と関係しそうなところを引用してみると、

語学の勉強で一番大切なのは、「慣れる」ということです。古典の文章も日本語の文章ではありませんけれど、もはや「違う言葉」になっています。だから、古典を読めるようになるためには、まず慣れることが必要です。でも、「なにが書いてあるのかが分からない文章」だと、読むことだけに苦勞して、一生懸命読んでもあまり「慣れる」にはなりません。それで、「なにが書かれているのかが分かる古典」を読む必要が生まれるのです。「そんなものがあるのか?」と言われれば、あります。たとえば、これですー。ー。

とって、『御伽草子』の中の浦島太郎の話が引用されている。君たちに今さら『御伽草子』を読めとは勧めないが、上に述べられている「慣れる」ということが重要であることは分かるだろう。では、これを君たち向けに言い換えるとどうなるかというと、ズバリ「今までに学習した教材を復習しなさい」ということになるのである。内容を覚えている教材(授業でやった教材、模試で解いた教材など)を繰り返し音読し、音読しながら主語の移り

変わりや重要語、重要文法事項などを意識できるようにする。これをコツコツと積み重ねて、「この教材はきっちり分かる」というものを増やしていく。これが「慣れる」という学習そのものなのとなるわけである。

*

『古典を読んでみましょう』の内容に戻ると、浦島太郎の話を紹介してある関係で、この作品に関する解説もされていて、これがなかなか面白かった。我々は、浦島太郎の話というと、浦島太郎が亀を助けて竜宮城に招待され、楽しく暮らしているうちに時間がたち、開けてはならぬという玉手箱をもって帰郷するが、すでに700年が経過していて、仕方なく玉手箱を開けると老人になっていしまう…というストーリーを思い浮かべるが、『御伽草子』の中のストーリーはかなり違うのである。この辺は実際に『御伽草子』を読んでも良いし(「慣れること」用に推薦されているから難しくない)、この『古典を〜』を読んでも良いが、へ〜えみみたいな感じである。

一つだけ付け加えると、乙姫様はなぜ「玉手箱」を浦島太郎に託すのかという分析が面白い。何故だと思う? そんな意地悪なことしなくてもイイではないかと思うが、実は、玉手箱の中には、竜宮で過ごしている間の浦島太郎の現実の時間がため込まれていたのである。だから、乙姫としてはそれを太郎に渡したくはないのだが、もともと太郎の時間だから太郎のものであり、帰郷するという以上それを渡さないわけにはいかないのである。なにも意地悪で渡したとか、そういうことではないのである。なるほど、納得である。